

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	田原 早紀
論文担当者	主査 坂口 太一
	副査 新村 健
	副査 若林 一郎
学位論文名	Clinical utility of reticulocyte hemoglobin equivalent
	in patients with heart failure
	心不全患者における網赤血球ヘモグロビン等量の有用性
論文審査の結果の要旨	
<p>心不全患者は貧血や鉄欠乏を合併しやすく、それらが予後に関係することが報告されている。従来の血清フェリチン濃度やトランスフェリン飽和度(Transferrin saturation; TSAT)を用いた診断は煩雑であり、より簡便な新規診断法が期待されている。</p> <p>学位申請者は、鉄欠乏の新たな指標として報告されている網赤血球ヘモグロビン等量(Reticulocyte hemoglobin equivalent; Ret-He)の心不全患者における有用性を検討した。急性非代償性心不全で入院した連続142例の患者を対象とし、入退院時の一般的な貧血検査とRet-Heの測定を行った。また、Ret-Heと血清鉄濃度、血清フェリチン濃度、TSATとの相関、及びRet-Heと予後との関連を検討した。その結果、貧血を82%、鉄欠乏を65%に認めた。Ret-Heは、血清鉄濃度、血清フェリチン濃度、TSAT及びヘモグロビン濃度と正の相関を認めた。ROC曲線による鉄欠乏のカットオフ値は、32.4pgと算出された。Ret-Heの四分位値と全死亡及び心不全再入院率に有意な関連は認めなかったが、退院時のRet-Heが入院時より2pg以上低下していた群は、非低下群と比べて全死亡及び心不全再入院率が高かった。これらの結果から、Ret-Heは心不全患者における鉄欠乏の指標として有用であり、その入院中の変化量が心不全の予後と関連することが示された。</p> <p>本研究はRet-Heの変化量が心不全患者の予後に関連することを初めて示したもので、Ret-Heを指標とした新たな治療戦略の可能性を示したことから、学位論文に資すると判断した。</p>	